

臨床実習

歯内治療学

《担当者名》歯科クリニック

教授 / 長澤 敏行 nagasawa@ 准教授 / 門 貴司 kado@ 講師 / 加藤 幸紀 satsuki@
 助教 / 清水 伸太郎 sshimizu@ 助教 / 杉山 のどか nsugiyama@ 特任教授 / 古市 保志 furuichi@
 大学病院
 教授 / 伊藤 修一 shu@ 講師 / 森 真理 marichan@ 助教 / 尾立 達治 odachi@
 助教 / 小西 ゆみ子 yumikom@

【概要】

歯髄・根尖性歯周組織疾患の治療（歯内療法）について、模型実習で理解し、修得した基本的事項を応用し、臨床における歯内療法の見学と治療について、知識、技能および態度を修得する。

【学修目標】

- 歯髄・根尖性歯周組織疾患の診察、診査および診断を実施する。
- 適切なアクセスキャビティープレパレーションを実施する。
- ラバーダム防湿を実施する。
- 根管長測定の必要性を患者に説明し、実施する。
- 根管内細菌培養検査の必要性を患者に説明し、実施する。
- 根管拡大・根管洗浄を実施する。
- 根管貼薬を実施する。
- 根管充填を実施する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	総合 登院実習説明 各種機材説明	臨床実習の進め方や注意事項、歯科クリニック外来における見学・介助・自験の方法について説明を受け、これらを理解するとともに、実習に必要な知識の整理と実習器具・器材の使用法を理解する。	長澤 敏行 門 貴司 加藤 幸紀 清水 伸太郎 杉山 のどか 古市 保志 伊藤 修一 森 真理 尾立 達治 小西 ゆみ子
	シミュレーション実習 1. 歯髄及び根尖性歯周疾患に対する診査 2. 抜髄 3. 根管充填 4. ロータリーニッケルチタンファイルによる根管拡大・形成 5. マイクロスコープによる髄腔内及び根管の確認	PCT模型上で、電気的根管長測定器（EMR）を使用して抜髄から根管充填までの処置を行う。 PCT模型上で、ロータリーニッケルチタンファイルによる根管拡大・形成法を行う。 PCT模型上で、マイクロスコープによる髄腔内及び根管の観察を行う。 (F-7-2)、E-3-3)-(2)	長澤 敏行 門 貴司 加藤 幸紀 清水 伸太郎 杉山 のどか 古市 保志 伊藤 修一 森 真理 尾立 達治 小西 ゆみ子
	(診察参加型臨床実習)	<p>担当された患者の検査、治療計画の立案、治療、予後の観察までの一連の流れを習得する。外来見学、介助及び一部診療を行い、下記の歯髄及び根尖性歯周疾患に対する検査法及び根管治療の内容についての技能、態度を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯髄及び根尖性歯周疾患の診察、診査、診断ができる。 ・ 適切なアクセスキャビティープレパレーションができる。 ・ ラバーダム防湿ができる。 ・ 電気的根管長測定器が正しくできる。 ・ 根管拡大・根管洗浄が適切にできる。 ・ 根管貼薬が正しくできる。 ・ 根管充填が適切にできる。 	長澤 敏行 門 貴司 加藤 幸紀 清水 伸太郎 杉山 のどか 古市 保志 伊藤 修一 森 真理 尾立 達治 小西 ゆみ子

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		(F-7-2),E-3-3)-(2)	
	臨床推論 臨床フィードバック講義	歯内治療に関する臨床推論ならびに臨床フィードバック講義を行い、歯内-歯周病変の処置及び外科的歯内療法などの経験が望まれる重要な課題を補完するとともに臨床推論能力を高める。 (G-1-1) 、G-2))	長澤 敏行 門 貴司 加藤 幸紀 清水 伸太郎 杉山 のどか 古市 保志 伊藤 修一 森 真理 尾立 達治 小西 ゆみ子

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

臨床実習 で課せられた課題とケース数の総合評価（ミニマムリクワイアメントは別途提示）とする。

注1：未修了の場合、総合学力試験の受験資格が与えられない。

注2：総合学力試験として当分野領域の多肢選択式問題を出題し、正答率60%以上を合格とする（出題数は別途提示）。

【教科書】

「第5版歯内治療学」医歯薬出版

「歯内療法学実習書」北海道医療大学歯学部歯周歯内治療学分野編

【参考書】

講義時配布資料

シミュレーション実習時には、別に配布する資料を使用する。

「う蝕治療ガイドライン第2版」特定非営利活動法人 日本歯科保存学会編

【学修の準備】

シミュレーション実習時には、教科書・講義資料と歯内療法学実習書を復習し、実習内容を理解したうえで行う（30分）

参加型臨床実習時には、事前に担当教員と打ち合わせし、治療内容について十分に理解する（60分）。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1. 安全で質の高い歯科医療を提供するために必要な専門知識に基づく問題解決能力と患者ケアのための診療技能とからなる専門的実践能力、および医療・医学研究の発展のために必要な情報・科学技術の活用能力を身につけている。（専門知識に基づいた問題解決能力、患者ケアのための診療技能、情報・科学技術を生かす能力）

DP 2. 「総合的に患者・生活者を支える歯科医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につけている。（総合的に患者・生活者をみる姿勢、プロフェッショナリズム、コミュニケーション能力）

DP3. より安全で質の高い歯科医療を実践し社会に適応する医学を創造していくために生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を継続しながら医療者教育と学術・研究活動にも関与できる能力を身につけている。（科学的探究、生涯に渡ってともに学ぶ姿勢）

DP 4. 多職種（保健、医療、福祉、介護）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる能力を身につけている。（多職種連携能力）

DP 5. 歯科医療の専門家として、経済的な観点・地域特性を捉えた視点・国際的な視野を持ちながら活躍できる能力を身につけている。（社会における医療の役割の理解）

【実務経験】

長澤 敏行（歯科医師）、門 貴司（歯科医師）、加藤 幸紀（歯科医師）、清水 伸太郎（歯科医師）、杉山 のどか（歯科医師）、古市 保志（歯科医師）、伊藤 修一（歯科医師）、森 真理（歯科医師）、尾立 達治（歯科医師）、小西 ゆみ子（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

歯内療法学は、歯髄・根尖歯周組織疾患の治療を通じて口腔機能の回復の意義、う蝕予防の重要性、さらには歯内療法が口腔のみならず全身の健康に寄与する科目であることを理解する。学術的根拠に加え、実務経験を活かすことで、歯内療法学に関する優れた教育成果をあげることが期待できる教育内容である。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している